

平成29年度第3回高齢者保健福祉推進会議 議事録

日 時 平成29年11月17日（金） 19時00分～19時57分

場 所 保健センター3階 健康増進室1

出席者 推進会議委員 10名

事務局 14名

コンサルタント 2名

議事録（要点筆記）

○事務局 ただ今から、平成29年度第3回高齢者保健福祉推進会議を開会する。

1 「第8次老人保健福祉計画・第7期介護保険事業計画」の素案について

○会長 「「第8次老人保健福祉計画・第7期介護保険事業計画」の素案について」を議題とする。事務局から説明をお願いします。

（事務局、資料に基づき説明）

○会長 ただいまの説明について、質問があればお願いします。

○会長 巻末にニーズ調査等の結果を付けるということだったが、本文中に分析結果がもう少し記載されるとスマートなものができるのではないかと思います。

○事務局 計画の第2章で、「高齢者を取り巻く周南市の現状」があるが、この後にアンケート結果から見た課題ということで、「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」等の結果・分析などを入れるなどして、調査結果と今後の取り組みがつながるように、工夫していきたい。グラフなどを付けてわかりやすくしたい。

○会長 「目標の達成状況の点検、調査及び評価並びに公表」の評価については、この高齢者保健福祉推進会議で報告・協議し、PDCAサイクルにより、さらなる次の展開に向けて協議がされるということだったが、この推進会議のあり方はどのようになっていくのか。

○事務局 PDCAサイクルにより高齢者保健福祉推進会議で必要に応じて見直ししながら実施することである。国の考え方は、取り組みと目標については、毎年市町村が自己評価をすることになる予定となっており、自己評価については計画策定委員会等での議論を踏まえることにより、関係者間での考え方を共有することが重要であると考えているということなので、それに則って、今後進めていきたいと考えている。

○会長 感想になるが、これまでもこの会議が開催され、期を重ねるごとに内容や国の施策をにらみながら対策しているが、評価が今一つ弱い印象を受けていた。今後は評価等の結果については、ホームページ等を通して周知を図るということで、少し前進したと思う。市民への周知についても、今後内容が充実していくのではと期待している。推進会議でも委員の皆様のご意見をいただき、次へと進めていきたい。

2 計画素案に対するパブリックコメントの実施について

○会長 「計画素案に対するパブリックコメントの実施について」を議題とする。事務局から説明をお願いします。

(事務局、資料に基づき説明)

○事務局 本計画のコンサルタントから説明していただく。

(事務局、資料に基づき説明)

○委員 パブリックコメントの閲覧場所については、自分の生活に関して意見を言いたい方がいらっしゃるのなら、各地域包括支援センターも閲覧場所に加えていただくことを希望する。

○事務局 今のご意見については、そのようにできるか検討していきたい。

○委員 このことについてどのくらいの段階で、このことについて周知徹底されるのか。

○事務局 パブリックコメントは素案や意見書を閲覧場所に置いたり、ホームページに掲載する予定にしておき、意見の提出期間中に市民の皆様にご直接提出していただくか、ファクスで提出するなどしていただくことにしている。その期間が1カ月間あるということである。

○委員 市民の皆さんに知らせるのと、意見を求めるのが同時進行ということか。

○事務局 案を見ていただいて、ご意見をいただくということである。

○会長 そのほか何かあるか。

〔質問なし〕

○会長 ないようなので、以上ですべての議題は終了する。委員の皆さまから何かあるか。

○委員 ふれあい・いきいきサロンは実施箇所が減少傾向で、積極的にサロンに出向き、活動の継続を支援したことはわかるが、なぜ減少傾向にあるかということについて、検討しているか。

○事務局 訪問に出向き聞き取りをした状況からは、なかなか年齢層の若い方の加入が進まなかったことにより、一時期減少傾向にあったのではないかと分析している。

○委員 私だけの考えだが、ふれあい・いきいきサロンにしても、こういった通いの場のあり方に問題点が出てくるのではないかなと思う。身体を動かして体操などすることは、1つの大事な要素だが、そこに集まって笑顔になって帰れるということにすごく効果があるし、いろんなところでこういった活動をしてきていると、体操よりもおしゃべりの方がすごい。このおしゃべりはすごく笑顔を生み出す。そういった生きがいがある通いの場にできるのが一番大事と思っている。

毎年、ふれあい・いきいきサロンに来ておられる方が集まって、お互いが顔見知りになり、お互いにどういうふうになっているのかなどを意見交換する場を作ってもらえるとよいのではと思う。そういうことにより、モチベーションも上がっていくのではないかなと思う。

○事務局 大変ありがたい意見をいただいたと思っている。来年度以降、まず、参加されていらっしゃる方の意向を聞き取る努力をしていくべきであると改めて思ったので、そういった方向についても検討して、なるべく早い段階で実現する方向も考えていきたい。

○委員 疾病の早期発見・早期対応について、認知症の方も早い段階でこういうことができれば、進行をとめることもできるし、少しでも長く普通の人と変わらないような生活ができるのではないかなと思う。定期健診ということにはならないと思うが、認知症になる前の段階を見つけることはできる。チャレンジウォーキングも認知症の予防につながる。本人が認知症になるかもしれないと気付いてもらえるような方向を考えてもらえると、認知症になる前や認知症になっても重度にならないうちに、本人が理解できるような形がとれるのではないかなと思うが、その辺はどうか。

○事務局 現状の施策としては、今年度からあたまの健康チェックに取り組んでいる。これは簡易のテストを受けていただくことにより、認知症の現状の症状がどういったところにあるのか調べてご本人にお伝えするという内容で、今年度は約100名の方が検査できる状況を整えて、地域包括支援セン

ターで呼びかけて実施している。

○委員 実施方法については、特別な対象ではなく、集まりがあるところでどんどんやっていただくと多くの人にテストできると思う。

○会長 事務局から何かあるか。

○事務局 次回は計画策定について最後の会議となる。2月または3月にこの会議を開催させていただきたい。議題はパブリックコメントの結果と計画策定についてである。

○会長 以上をもって、高齢者保健福祉推進会議を終了する。
長時間にわたり、ご審議ありがとうございました。